昔、江戸城、今は皇居

JJ1SXA/池

徳川家の居城の江戸城は明治維新で宮城に、そして今は皇居、この皇居の門と、かの有名な二重橋について一寸調べて見た。

先ずは、「皇居正門」と皇居正門前に架かる「二重橋」、別名「二の橋」や「月見橋」とも呼ばれ、皇居前広場から正門を通り宮殿までの濠にかかる橋です。

皇居正門前には 2 つの橋が架かっており、広場から見て奥側にある鉄橋が「正門鉄橋（せいもんてつばし）」、手前の石橋が「正門石橋（せいもんいしばし）」、「二重橋」はこの二つの橋の総称であると勘違いされがちですが、正式には「二重橋」とは「正門鉄橋」のことを指しているとのこと。

江戸時代に架けられていた「二重橋」は、かつて「西の丸下乗橋」という名の木橋で、当時は橋の架けられていた部分の濠が深かったため、橋桁を支えるため土台となる丸太の上に橋を重ねて設計されていて、その様子が二重構造になっているように見えたことから「二重橋」と呼ばれ始めたといわれているようです、その後 1888（明治 21 年）に鉄橋となり、1964（昭和 39）年に修繕され、現在の姿に至ります。

一般的に（私もだが）「正門石橋（眼鏡橋）」が「二重橋」だと思い込んでいたが近年、NET 等でその奥に架かる「正門鉄橋」と二つの橋の総称であるとの説明が誠しやかに語られ、またまたそのように思い込んでいる人は大多数いる、私も例に漏れずだったが、今度、本当に正しいことを知った。

「皇居正門」から時計と逆回りで進むと、次は「坂下門（さかしたもん）」、名前は西の丸から低地に降りる坂下にあたることに由来。

順次進むと、「桔梗門（ききょうもん）」、太田道灌の家紋の桔梗紋から付けられたといわれているが、別名として、「内桜田門橋」ともいうらしい。

「大手門（おおてもん）」、大手門は、日本の城の正面にある門を指し、「大手」は城の正面を意味する言葉、敵を追い詰める方向を意味する「追手」という字でも書かれることから、追手門とも呼ばれる。

「平川門（へいかわもん）」、この周辺が平川村と呼ばれていたため、平川門という名がついたようだ。（私は、「ひらかわもん」と思っていた…恥ずかしい）

「北桔橋門（きたはねばしもん）」、有事の際に跳ね上がる構造の橋があったことに由来する。（読めないままだった）

「乾門（いぬいもん）」、江戸城の巽二重櫓の対角線上である西北に位置し、「乾の方角」にあたることから名付けられている。

「清水門（しみずもん）」、かつて清水が湧き出ていたからという説とこの付近に清水寺があったからという説があるようだ。

「田安門（たやすもん）」、門のある台地が田安台と呼ばれ、そこに田安神社（現在

の築土神社）があったことに由来する。

「半蔵門（はんぞうもん）」、伊賀者の服部半蔵がその周辺に配下とともに屋敷を拝領していた事によるようだ。

「桜田門（さくらだもん）」、正式名称は「外桜田門」で、江戸城西の丸の南に流れる桜田濠に設けられた門。

この他、現在は門は無く地名や橋があるのみの場所。

「馬場先門（ばばさきもん）」三代将軍徳川家光が門内の馬場で朝鮮使節の曲馬を上覧したことから、朝鮮馬場の名が生まれ、馬場先の名が付けられた、内濠に架かり、丸の内二・三丁目の間から皇居正面に通じる土橋（現在は石垣の一部だけ残る）。

「和田倉門（わだくらもん）」、名の由来は、海の名称「わた」からきたもの、日比谷の入り江がここに及び、その入江にのぞんで倉が並んでいたので、あわせてこの地を和田倉と呼ぶようになったそうだ。

「竹橋門（たけばしもん）」、竹で編んだ橋が最初に架かっていたことに由来するそうです。

私には、新しい発見が多くありましたが、皆さんは如何でしたか？「二重橋」の正しい知識も如何だったでしょう、知っていたよという方もあるでしょうが…

「正門鉄橋」、これが正しい「二重橋」

「二重橋」と勘違いされる「正門石橋

（2024 年 8 月記）

注：この記事も第 120 号用に書いたが、PC の不調で、一時行方不明になっていた。